

# オリンピック・パラリンピック推進対策特別委員会 会速記録第三十九号

2016年10月11日

## 出席議員 二十三名

委員長	高島なおき君	理事	吉田 信夫君	徳留 道信君
副委員長	藤井 一君		小林 健二君	鈴木 隆道君
副委員長	秋田 一郎君		菅野 弘一君	今村 るか君
副委員長	吉原 修君		おときた駿君	畔上三和子君
理事	伊藤こういち君		斉藤やすひろ君	林田 武君
理事	山崎 一輝君		川松真一朗君	立石 晴康君
理事	相川 博君		山内れい子君	川井しげお君
理事	酒井 大史君		石川 良一君	欠席委員 なし

## 出席説明員

オリンピック・パラリンピック準備局 局長	塩見 清仁君	パラリンピック担当部長	萱場 明子君
	技監 上野 雄一君	障害者スポーツ担当部長兼務	
	技監 三浦 隆君	大会施設部長	根本 浩志君
	技監 小野 恭一君	競技・渉外担当部長	小野 由紀君
	理事 小山 哲司君	開設準備担当部長	鈴木 一幸君
	総務部長 鈴木 勝君	施設担当部長	花井 徹夫君
	調整担当部長 雲田 孝司君	施設整備担当部長	小野 幹雄君
	総合調整部長 児玉英一郎君	輸送担当部長選手村担当部長兼務	朝山 勉君
	連絡調整担当部長 岡安 雅人君	スポーツ施設担当部長	田中 慎一君
	連携推進担当部長 丸山 雅代君	スポーツ推進部長	小室 明子君
	自治体調整担当部長 井上 卓君	スポーツ計画担当部長	川瀬 航司君
事業推進担当部長計画調整担当部長兼務	戸谷 泰之君	ラグビーワールドカップ準備担当部長	
運営担当部長	田中 彰君	国際大会準備担当部長兼務	土屋 太郎君

## 本日の会議に付した事件

二〇二〇年に開催される第三十二回オリンピック競技大会及び第十六回パラリンピック競技大会並びに二〇一九年に開催される第九回ラグビーワールドカップ二〇一九の開催に向けた調査・検討及び必要な活動を行う。

副委員長の辞任

理事の互選

報告事項

- ・東京二〇二〇パラリンピック競技大会会場計画の再検討の状況(その三)について(説明)
- ・東京二〇二〇参画プログラムについて(説明)
- ・リオデジャネイロオリンピック・パラリンピックについて(説明)
- ・東京二〇二〇オリンピック競技大会の追加種目(その二)について(質疑)

閉会中の継続調査について

**石川委員** 私の方からは、東京二〇二〇オリンピック・パラリンピック大会の基本コンセプトについてお伺いをいたします。

当初の東京二〇二〇大会のコンセプトは、成熟し今なお進化を続ける大都市の中心で、かつてないほどコンパクトな大会を開催すること。選手村を都市の中心に配置し、最短の移動時間が可能なコンパクトで集中した会場配置とすること。八五%の競技会場と全てのIOCホテルは、選手村から八キロ圏内に配置というもので、まさにコンパクトな大会を最大の特徴としていたわけであります。

その後、会場の約六割を新設、仮設で賄う予定になっていましたが、建設資材の値上がりや人手不足で、整備費は大幅に膨らんでいきました。舛添知事も競技会場の建設計画を見直すことを二〇一四年六月に表明いたしました。

一方、競技拠点整備を期待する国内の競技団体からは、約束が違うですとか、反発も出まして、オリンピックアジェンダ二〇二〇は、二〇一四年十二月にモナコで行われた第百二十七次IOC総会において採択をされました改革案で、財政的な負担を軽くする方向に転換をしていたわけであります。

自転車競技、トラックレースは、立候補ファイルでは有明ペロドロームであり、マウンテンバイクも海の森マウンテンバイクコースだったものが、伊豆ペロドロームと伊豆マウンテンバイクコースにおのおのが変更となったわけであります。

このことに象徴されますように、地理的なコンパクトオリンピックから、財政的なコンパクトオリンピックにコンセプトの比重を変化させてきたといえるわけであります。

そこで、前回のオリンピック・パラリンピック特別委員会では、追加種目、五競技十八種目が採択されたこと、会場予定地についても口頭にて報告をされましたが、この会場予定地は、立候補ファイル作成時のコンパクト五輪の考え方は踏襲しているのでしょうか。お伺いいたします。

**小野オリンピック・パラリンピック準備局競技・渉外担当部長** 会場予定地につきましては、立候補ファイルでのコンパクトな会場計画の考え方、その一つにはアスリートファーストがございますが、これらを踏襲しつつ、アスリートにとって快適な競技環境であることや、各競技の実施に求められる要件に合致し、大会を確実に運営できる会場であることなどの観点から決定されたものでございます。

**石川委員** アスリートファースト、コンパクトな会場計画は、追加競技の会場計画の中でも生きているということになるわけでございます。

小池知事が就任をして、東京都の都政改革本部の五輪調査チームが二〇二〇年五輪パラリンピックの開催経費の妥当性を検証しております。

そして、調査チームは、カヌースプリントとボートの会場となる海の森水上競技場、水泳のオリンピックアクアティクスセンター、バレーボールの有明アリーナの会場移転や整備計画の見直しを提言しています。

これは、東京都は当初のコンパクト五輪から財政的なコンパクト五輪に、ぎりぎりの日程でシフトがえを図ろうとしているというふう理解をするわけであります。コンパクトとは、立地条件だけでなく、予算のコンパクトという意味もあるわけでございますけれども、追加種目も予算をコンパクトにするという面でも考えられているのかどうかお伺いいたします。

**小野オリンピック・パラリンピック準備局競技・渉外担当部長** 会場予定地の選定に当たりましては、既存施設を最大限に活用することを基本とし、運営費用の低減が図れることなど、コストに対しても最大限の配慮を行っております。

実施競技がふえることにより、大会準備がふえることとなりますが、効率的な整備や運営を行うよう、組織委員会と十分に連携してまいります。

**石川委員** 招致時の二〇一三年一月の時点での東京都の負担する五輪施設整備費用の見込みは一千五百三十八億円ということで、これは招致を決定するための予算案というふうにもいえるわけで、かなり抑制されていたものというふうにいえるでしょう。

その後、開催決定後の同年九月の再試算では四千五百八十四億円にはね上がり、その後、夢の島ユース・プラザ・アリーナ、若洲オリンピックマリーナ、IBC、MPCの中止等で、二〇一五年十一月時点で二千二百四十一億円まで圧縮をしているわけであります。

ただ、新国立競技場の四百四十八億円、有明アリーナの用地費百八十三億円、その他関連費などを含めると、三千百四億円となるわけであります。

その後、五輪調査チームから出された削減案以外に、都内の仮設、千五百億円は全て都が負担をするなどの案も示されているわけであります。

メディアによりますと、国民、都民意識調査では、八割以上の方がオリンピック経費の削減を進めることに賛同しているわけであります。このことをしっかりと受けとめなければならぬと思っております。

また、二〇二〇年のオリンピック・パラリンピックに係る総費用を森組織委員会会長は二兆円、舛添知事は三兆円という数字を口にしたわけでありますけれども、総経費を把握することは極めて重要なことと考えております。

各競技団体は、常にベストの施設、余裕のある運営費を求めるわけでありますけれども、青天井でお金をかけるわけにはいかないわけであります。なぜなら、都民が最終的には負担をすることになるわけでありますから、総経費を把握し、削減目標を立て、総経費を削減する努力をすることは当然のことといえるわけであります。

全体像を把握し、同じように費用が膨張したロンドンのように、オリンピック・デリバリー・オーソリティーのような予算管理や進行管理を一元的に担う組織が必要と考えるわけであります。

アスリートファースト、コンパクトの考え方を踏襲して、追加種目の会場案も示されたということになります。今後、会場の決定、その整備運営費も無駄のないものとするを求めておきたいと思っております。

一方、サーフィンは東京都町村会から都内の新島村への要請が出されておりました。野球といえますと、東京ドームと誰でも答えるわけであります。会場予定地について、サーフィンはなぜ都内の新島ではなく千葉なのか、また、野球・ソフトボールはなぜ東京ドームではなく横浜スタジアムなのかをお伺いいたします。

**小野オリンピック・パラリンピック準備局競技・渉外担当部長** サーフィンにつきましては、新島村羽伏浦海岸を含む全国の海岸を対象に検証を行いました。

島しょでの開催は、選手、関係者、観客等の輸送や宿泊に課題があり、IF、IOCと協議の結果、サーフィン競技に適した良質な波と大会を確実に実施できる砂浜の広さを有する千葉県銕ヶ崎海岸が会場予定地となりました。

野球・ソフトボールにつきましては、東京ドームを初め、都内球場を含む全国数十カ所の既存球場を対象として、組織委員会とともに検証を行いました。

その結果、野球とソフトボールを同一会場で実施することを前提に、セキュリティを初め、オリンピック競技を開催するに十分な運営スペースが確保できることなどの観点から、IF、IOCと協議を重ね、横浜スタジアムが会場予定地となっております。

**石川委員** 東京都町村会からの要望が通らないことは非常に残念なわけでありますけれども、しっかり選定プロセスと結果の説明がなされることを求めておきたいと思っております。

また、野球・ソフトボールの開催については、被災地の開催を本気で考えるということであるならば、福島県で主要な試合の開催を検討していただくことを意見として申し上げたいと思っております。

今月、小池知事と国際オリンピック委員会のパッハ会長が都内で十八日に会談をする調整が進められているとのことでございます。既にIOC副会長で東京大会の準備状況を監督するコーツ調整委員会委員長は、インフラ整備費と運営費を分けて考え、コスト削減を図る対策が求められる、知事の要求は理解できるが、大事なのはバランスだと報道陣に語っております。

三会場の見直しについては、一カ月で結論を出すということになっておりますけれども、コンパクトに財政的なバランスをもう少し動かすことが納税者の意思であるということを受けとめなければならぬことを表明しておきたいと思っております。

以上でございます。